

担い手の経営のライフステージに応じた支援

3. 被災者等への支援

(1) 「会津身不知柿」の輸出再開および凍霜害発生に伴う災害対策資金の対応

JA会津よつば (福島県)

新規	継続
	○
	(平成 28 年 4 月)

1 動機(経緯)	会津地方における名産品である「会津身不知柿」は、原発事故の影響でタイ・マレーシアへの輸出が中断を余儀なくされていましたが、平成 28 年度より輸出再開を計画していました。しかしながら、平成 28 年 4 月に凍霜害により甚大な被害を受け、生産販売の拡大・輸出再開に向けては、営農継続に必要な資金に対し、平成 28 年より継続して支援を実施しています。
2 概要	当 JA は、営農継続を後押しするため、営農部門と金融部門が連携し、被害状況および資金ニーズの把握を実施のうえ、資金ニーズのある組合員に対しては、低利(無利子・保証料別途)の県制度資金である「農家経営安定資金(災害特別資金)」を提案し、必要な資金対応を行いました。 また、輸出再開にあたっては、海外での販路拡大に向け、行政と連携のうえ、海外バイヤーの福島県視察受け入れおよび現地商業施設でのプロモーション活動を実施しました。
3 成果(効果)	本件の資金支援および輸出拡大の取組みにより、被害農家の営農継続を後押ししたほか、平成 29 年の輸出量は前年の 10 倍となり、タイへ 30 t・マレーシアへ 3 t を輸出しました。 なお、本資金を利用された組合員の方々からは「予想していなかった被害に遭い不安に感じていたが、低利で借入することが出来て助かった」、「来年以降も生産を続けることが出来る」とのコメントをいただきました。
4 今後の予定	今後とも、災害等による農産物の被害発生に対しては、営農部門・金融部門が連携し、迅速な対応を行っていく予定です。